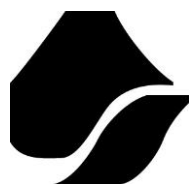


2026（令和8年度）

大学院薬食生命科学総合学府
薬学研究院

博士前期課程・博士後期課程・
博士課程履修要項



静岡県立大学大学院薬学研究院
Graduate School of Pharmaceutical
Sciences
University of Shizuoka

目次

薬学研究院 講座一覧.....	1
教育理念・教育目標・三つのポリシー	2
教育理念.....	2
教育目標.....	2
学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	2
薬学専攻（博士課程）	2
薬科学専攻（博士前期課程）	3
薬科学専攻（博士後期課程）	3
薬食生命科学専攻（博士後期課程）	4
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	5
薬学専攻（博士課程）	6
薬科学専攻（博士前期課程）	6
薬科学専攻（博士後期課程）	6
薬食生命科学専攻（博士後期課程）	6
入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）	11
薬学専攻（博士課程）	11
薬科学専攻（博士前期課程）	11
薬科学専攻（博士後期課程）	12
薬食生命科学専攻（博士後期課程）	12
博士前期課程 薬科学専攻.....	13
履修案内.....	14
履修ロードマップ	18
薬科学特論（特別講義・月例セミナー等）セミナー聴講カード	19
時間割表.....	20
修士論文 作成・提出要領	21
博士・博士後期課程.....	29
履修案内.....	30
博士課程 薬学専攻.....	30
博士後期課程 薬科学専攻	32
博士後期課程 薬食生命科学専攻.....	33
全学共同利用施設の案内.....	36
アイソトープセンターの利用について	37
動物実験センターの利用について.....	38

薬学研究院 講座一覧

薬学研究院 Graduate School of Pharmaceutical Sciences

薬化学講座	Organic Chemistry
生体機能分子分析学講座	Analytical Chemistry
生化学講座	Biochemistry
衛生分子毒性学講座	Molecular Toxicology
生薬学講座	Pharmacognosy
免疫微生物学講座	Microbiology & Immunology
生命物理化学講座	Physical Chemistry
統合生理学講座	Neurophysiology
医薬品製造化学講座	Synthetic Organic & Medicinal Chemistry
創剤工学講座	Pharmaceutical Engineering
医薬生命化学講座	Medical Biochemistry
医薬品創製化学講座	Synthetic Organic Chemistry
創薬探索センター	Center for Drug Discovery
臨床薬剤学講座	Clinical Pharmaceutics
生体情報薬理学講座	Bio-Informational Pharmacology
分子病態学講座	Molecular Medicine
薬剤学講座	Biopharmacy
薬理学講座	Pharmacology
臨床薬効解析学講座	Clinical Pharmacology & Genetics
医薬品情報解析学講座	Drug Evaluation & Informatics
実践薬学講座	Pharmacy Practice & Science

教育理念・教育目標・三つのポリシー

教育理念

疾病の予防・治療による健康維持には、適切な医薬品や食品の開発・選択、それらの的確な使用や摂取、及び良好な環境の提供が欠かせません。大学院薬食生命科学総合学府では、健康維持の要因あるいは疾病の発症・進展のメカニズムを生命科学や物質科学の観点から解明し、その成果を活用し健康社会の構築に貢献する人材を育成します。

教育目標

豊かな人間性や正しい倫理観を持ち、薬学、食品栄養科学、環境科学等の最先端科学を通して国際的に活躍できる人材として、以下の能力の修得を目指します。

- ・薬、食品、栄養あるいは環境に関する科学の習得と研究に必要な発展力
- ・グローバルな科学コミュニティへの参加に必要な対話能力

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

薬学専攻（博士課程）

医療薬学・臨床薬学関連分野の第一線で活躍できる高い専門性を有する薬剤師や医療薬学研究者の養成を教育目標として掲げており、以下に掲げる資質を身に付け、所定の単位を修得した学生に対し、博士（薬学）の学位を授与します。

1. 高い国際対話能力

グローバルに活躍できる情報収集能力を有し、それに必要なコミュニケーション能力及び国際感覚を身に付けている。

2. 倫理観

生命倫理及び患者の人権を最優先するという強い倫理観を身に付けている。
研究活動の責任・使命を理解し、健全な科学倫理観を身に付けている。

3. 高度な知識と技能

最先端の医療ならびに基礎及び臨床研究を実施できる知識と技能を有している。
臨床及び研究活動における課題解決に必要な知識と技能を有している。
医療現場や研究活動において指導的立場として活躍できる知識と技能、ならびにコミュニケーション能力を有している。

4. 高い臨床能力

医療現場で遭遇する様々な問題を率先的に発見・解決できる臨床的な能力を身に付けている。

薬物療法を提案・遂行する能力を身に付け、チーム医療に指導的立場で貢献できる。

5. 自己研鑽

医療人として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲と能力を身に付けている。

薬科学専攻（博士前期課程）

創薬科学及び生命薬学の研究領域でグローバルに貢献できる人材の育成を教育目標として掲げており、以下に掲げる資質を身に付け、所定の単位を修得した学生に、修士（薬科学）の学位を授与します。

1. 高い国際対話能力

グローバルに活躍できる情報収集能力を有し、それに必要なコミュニケーション能力及び国際感覚を身に付けている。

2. 倫理観

生命の尊厳を守るための強い倫理観を身に付けている。

研究活動の責任・使命を理解し、健全な科学倫理観を身に付けている。

3. 高度な知識と技能

創薬・生命薬学研究に必要な薬学専門領域に関する知識・技能を身に付けている。

薬学的基礎知識・技能を基盤とし、それらを活用・応用する能力を身に付けている。

4. 独創性と問題解決能力

創薬・生命薬学研究者に求められる独創性や問題解決の基礎的な能力を身に付けている。

独創性と問題解決能力を涵養し、創薬・生命薬学研究を自ら計画・遂行できる能力を身に付けている。

5. 自己研鑽

創薬・生命科学に関わる研究者として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲と能力を身に付けている。

薬科学専攻（博士後期課程）

創薬科学及び生命薬学の研究領域でグローバルに貢献でき指導的役割を担える人材の育成を教育目標として掲げており、以下に掲げる資質を身に付け、所定の単位を修得し

た学生に卒業を認定し、博士（薬科学）の学位を授与します。

1. 高い国際対話能力

グローバルに活躍できる情報収集能力とそれに必要なコミュニケーション能力及び国際感覚を有し、研究成果を世界に発信する能力を身に付けている。

2. 倫理観

生命の尊厳を守るための強い倫理観を身に付けている。

研究活動の責任・使命を理解し、健全な科学倫理観を身に付けている。

3. 高度な知識と技能

創薬・生命薬学研究に必要な複数の薬学専門領域に関する知識・技能を身に付けている。

薬学的基礎知識・技能を基盤とし、創薬・生命薬学研究の分野を切り拓く能力を身に付けている。

4. 独創性と問題解決能力

創薬・生命薬学研究者に求められる独創性や問題解決能力を身に付けている。

創薬・生命薬学研究を自ら計画・遂行し、さらに指導的立場で活躍できる知識及び技能を身に付けている。

5. 自己研鑽

創薬・生命科学に関わる研究者として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲と能力を身に付けている。

薬食生命科学専攻（博士後期課程）

薬食生命科学や健康長寿科学の研究領域でグローバルに貢献でき指導的役割を担える人材の育成を教育目標として掲げており、以下に掲げる資質を身に付け、所定の単位を修得した学生に対し博士（薬食生命科学）あるいは博士（生命薬科学）の学位を授与します。

1. 高い国際対話能力

薬食生命科学や健康長寿科学の研究領域においてグローバルに活躍できる情報収集能力とコミュニケーション能力を身に付けている。

2. 倫理観

正しい倫理観と研究の課題解決能力を習得している。

3. 高度な知識と技能

薬学と食品栄養科学を基盤とした幅広い知識を理解し、論理的に思考できる。

4. 独創性と問題解決能力

専門領域における独創的な研究・開発を牽引するために必要な研究能力と意欲を持

っている。

修得した知識と研究能力を基に、国際社会から地域社会までのグローバルな視点で社会に貢献できる能力と姿勢を持っている。

5. 自己研鑽

薬食生命科学という学際融合領域に関わる研究者として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲と能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

薬学専攻（博士課程）

医療人としての倫理観を持ち、世界に通用する語学力及びコミュニケーション能力を養うとともに、臨床薬学及び薬学研究の基盤となる知識と技能を醸成し、医療の担い手として貢献する指導的立場の薬剤師、臨床検査技師や医療薬学領域の研究者を養成するために、以下のようなカリキュラムを編成しています。

1. 高い国際対話能力

必修科目「薬学セミナー」により最先端の薬学研究に関する情報を幅広く収集する能力を身に付けるとともに、必修科目「医療薬学演習」、「医療薬学特別実験」、及び「医療薬学特別演習」による研究活動を通して、医療薬学・臨床薬学関連分野の第一線でグローバルに活躍できる情報収集能力とそれに必要なコミュニケーション能力、研究成果を世界に発信する能力を身に付ける。さらに、複数の自由選択科目からなる科学英語関連の演習科目を履修することにより、高い国際対話力と国際感覚を身に付ける。知識面の学修成果は、レポートや口頭試験等により評価する。演習・実験科目における学修成果は、上記の評価方法に加えて、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

2. 倫理観

必修科目「先端医療薬学特論」、「医療薬学演習」、「医療薬学特別実験」、及び「医療薬学特別演習」を通して、生命倫理および患者の人権を最優先する倫理観、研究活動の責任・使命を理解した科学倫理観を身に付ける。知識面の学修成果は、レポートや口頭試験等により評価する。演習・実験科目における学修成果は、上記の評価方法に加え、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテ

ーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

3. 高度な知識と技能

複数の選択科目からなる基礎薬学特論を履修することにより高度な知識を身に付けるとともに、必修科目「先端医療薬学特論」、「薬学セミナー」、「医療薬学特別実験」、「医療薬学演習」、及び「医療薬学特別演習」を通して、最先端医療の実践ならびに基礎研究・臨床研究を実施できる知識と技能、臨床および研究活動における課題解決に必要な知識と技能、医療現場や研究活動において指導的立場として活躍できる知識と技能、ならびにコミュニケーション能力を身に付ける。

知識面の学修成果は、筆記試験、レポートや口頭試験等により評価する。演習・実験科目における学修成果は、上記の評価方法に加えて、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

4. 高い臨床能力

必修科目「医療薬学特別実験」、「医療薬学演習」、及び「先端医療薬学特論」を通して、医療現場で遭遇する様々な問題を率先的に発見・解決できる臨床的な能力、薬物療法を提案・遂行する能力、チーム医療に指導的立場で貢献できる高い臨床能力を身に付ける。

知識面の学修成果は、レポートや口頭試験等により評価する。演習・実験科目における学修成果は、上記の評価方法に加えて、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。

学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

5. 自己研鑽

必修科目「医療薬学特別実験」及び「医療薬学演習」による研究活動を通して、医療人として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲と能力を身に付ける。学修成果は、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

薬科学専攻（博士前期課程）

創薬、生命薬学研究の基盤となる知識と技能を統合的に捉える広い視野と論理的な考察力を醸成し、創薬・生命薬学研究を担う創造力豊かな研究者や高度専門職業人を養成するために、以下のようなカリキュラムを編成しています。

1. 高い国際対話能力

必修科目「薬科学特論」により最先端の薬科学研究に関する情報を幅広く収集する能力を身に付けるとともに、必修科目「講座特別演習」、「薬科学特別実験」、及び「薬科学特別演習」による研究活動を通して、創薬科学及び生命薬学の研究領域でグローバルに貢献できる情報収集能力とそれに必要なコミュニケーション能力及び国際感覚を身に付ける。

知識面の学修成果は、レポートや口頭試験等により評価する。演習・実験科目における学修成果は、上記の評価方法に加えて、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形式的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

2. 倫理観

必修科目「講座特別演習」、「薬科学特別実験」、及び「薬科学特別演習」による研究活動を通して、生命の尊厳を守るための倫理観、研究活動の責任・使命を理解した科学倫理観を身に付ける。

学修成果は、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形式的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

3. 高度な知識と技能

必修科目「薬科学特論」、複数の選択科目からなる講座特論、及び自由選択科目を履修することにより高度な知識を身に付けるとともに、必修科目「講座特別演習」、「薬科学特別実験」、及び「薬科学特別演習」による研究活動を通して、創薬・生命薬学研究に必要な薬学専門領域に関する知識と技能、さらにそれらを活用・応用できる能力を身に付ける。

知識面の学修成果は、筆記試験、レポートや口頭試験等により評価する。演習・実験科目における学修成果は、上記の評価方法に加えて、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形式的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

4. 独創性と問題解決能力

必修科目「講座特別演習」、「薬科学特別実験」、および「薬科学特別演習」による研究活動を通して、創薬科・生命薬学研究者に求められる独創性や問題解決の基礎的な能力、研究を自ら計画・遂行できる能力を身に付ける。

学修成果は、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

5. 自己研鑽

必修科目「講座特別演習」、「薬科学特別実験」、および「薬科学特別演習」による研究活動を通して、創薬・生命薬学に関わる研究者として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲と能力を身に付ける。

学修成果は、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

薬科学専攻（博士後期課程）

大学人としての倫理観を持ち、世界に通用する語学力及びコミュニケーション能力を養うとともに、創薬、生命薬学研究の基盤となる知識と技能を醸成し、創薬・生命薬学研究を担う創造力豊かな指導的研究者や高度専門職業人を養成するために、以下のようなカリキュラムを編成しています。

1. 高い国際対話能力

必修科目「先端薬科学特別実験」及び「先端薬科学特別演習」による研究活動を通して、創薬科学及び生命薬学の研究領域でグローバルに貢献できる情報収集能力とそれに必要なコミュニケーション能力、研究成果を世界に発信する能力を身に付ける。さらに、複数の自由選択科目からなる科学英語関連の演習科目を履修することにより、高い国際対話力と国際感覚を身に付ける。

知識面の学修成果は、レポートや口頭試験等により評価する。演習・実験科目における学修成果は、上記の評価方法に加えて、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

2. 倫理観

必修科目「先端薬科学特別実験」及び「先端薬科学特別演習」による研究活動を通し

て、生命の尊厳を守るための強い倫理観、研究活動の責任・使命を理解した健全な科学倫理観を身に付ける。

学修成果は、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

3. 高度な知識と技能

必修科目「先端薬科学特別実験」及び「先端薬科学特別演習」による研究活動を通して、創薬・生命薬学研究に必要な複数の薬学専門領域に関する知識・技能、さらにそれらを基盤として創薬・生命薬学研究の分野を切り拓く高度な知識と技能を身に付ける。また、自由選択科目を履修することにより幅広い知識を身に付けることができる。知識面の学修成果は、筆記試験、レポートや口頭試験等により評価する。演習・実験科目における学修成果は、上記の評価方法に加えて、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

4. 独創性と問題解決能力

必修科目「先端薬科学特別実験」及び「先端薬科学特別演習」による研究活動を通して、創薬科・生命薬学研究者に求められる独創性や問題解決能力、自ら研究を計画・遂行し、さらに指導的立場で活躍できる知識及び技能を身に付ける。

学修成果は、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

5. 自己研鑽

必修科目「先端薬科学特別実験」及び「先端薬科学特別演習」による研究活動を通して、創薬・生命薬学に関わる研究者として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲と能力を身に付ける。

学修成果は、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

薬食生命科学専攻（博士後期課程）

薬食生命科学という学際融合領域の学問を習得するため、薬学、栄養学、食品科学を統合的に捉え、薬食生命科学領域の研究を通して、健康長寿科学を遂行するチャレンジ精神と優れた俯瞰力を有し、独創的な研究・開発を牽引するリーダーとして、グローバルに活躍

できる知識、研究力、正しい倫理観をもつ研究者や高度専門職業人を養成するために、以下のようなカリキュラムを編成しています。

1. 高い国際対話能力

必修科目「薬食生命科学特別実験」及び「薬食生命科学特別演習」による研究活動を通して、薬食生命科学や健康長寿科学の研究領域でグローバルに活躍できる情報収集能力とそれに必要なコミュニケーション能力、研究成果を世界に発信する能力を身に付ける。さらに、複数の自由選択科目からなる科学英語関連の演習科目を履修することにより、高い国際対話力と国際感覚を身に付ける。

知識面の学修成果は、レポートや口頭試験等により評価する。演習・実験科目における学修成果は、上記の評価方法に加え、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

2. 倫理観

必修科目「薬食生命科学特別実験」及び「薬食生命科学特別演習」による研究活動を通して、生命の尊厳を守るための強い倫理観、研究活動の責任・使命を理解した健全な科学倫理観を身に付ける。

学修成果は、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

3. 高度な知識と技能

必修科目「健康長寿科学特論」により高度な知識を身に付けるとともに、必修科目「薬食生命科学特別実験」及び「薬食生命科学特別演習」による研究活動を通して、薬学と食品栄養科学の知識と技能を基盤とし、薬食生命科学や健康長寿科学という学際融合領域の研究分野を切り拓く能力を身に付ける。また、講義科目と演習科目からなる選択科目を履修することにより、幅広い知識と技能を身に付けることができる。

知識面の学修成果は、レポートや口頭試験等により評価する。演習・実験科目における学修成果は、上記の評価方法に加えて、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

4. 独創性と問題解決能力

必修科目「薬食生命科学特別実験」及び「薬食生命科学特別演習」による研究活動を通して、専門領域における独創的な研究・開発を牽引するために必要な研究能力と意欲、修得した知識と研究能力を基に国際社会から地域社会までのグローバルな視点で

社会に貢献できる能力と姿勢を身に付ける。

学修成果は、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

5. 自己研鑽

必修科目「薬食生命科学特別実験」及び「薬食生命科学特別演習」による研究活動を通して、薬食生命科学や健康長寿科学という学際融合領域に関わる研究者として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲と能力を身に付ける。

学修成果は、研究室セミナーや学会発表などのプレゼンテーションを通して形成的に評価する。学位論文については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価により、ディプロマ・ポリシーの到達度を総合的かつ多面的に評価する。

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

薬学専攻（博士課程）

医療人としての倫理観を持ち、世界に通用する語学力及びコミュニケーション能力を養うとともに、臨床薬学及び薬学研究の基盤となる知識と技能を醸成し、医療の担い手として貢献する指導的立場の薬剤師や医療薬学領域の研究者を目指す次のような人を求めています。

- ・健全な倫理観を備え、指導的立場の薬学人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持つ人
- ・大学で習得した薬学の基礎知識や技能を基盤として、それらをさらに発展させたいという学習意欲と科学的探究心を有している人
- ・社会のニーズに柔軟に対応できる創造力と論理的思考力を有し、医療や薬物治療に対する問題意識を常に持ち、他者と意見交換しながら論理的に問題解決へ向けて取り組む人

薬科学専攻（博士前期課程）

創薬、生命薬学研究の基盤となる知識と技能を涵養し、創薬・生命薬学研究を担う研究者や高度専門職業人をを目指す次のような人を求めています。

- ・健全な倫理観を備え、薬学人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持つ人
- ・大学で習得した薬科学の基礎知識や技能を基盤として、それらをさらに発展させた

- いという学習意欲と科学的探究心を有している人
- ・広い視野と論理的な考察力を有し、創薬研究や生命薬学研究に高い集中力で忍耐強く取り組む人

薬科学専攻（博士後期課程）

大学人としての倫理観を持ち、世界に通用する語学力及びコミュニケーション能力を養うとともに、創薬、生命薬学研究の基盤となる知識と技能を醸成し、創薬・生命薬学研究を担う創造力豊かな指導的研究者や高度専門職業人を目指す次のような人を求めています。

- ・健全な倫理観を備え、指導的立場の薬学人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持つ人
- ・薬科学の専門的知識や技能を基盤として、それらをさらに発展させたいという学習意欲と科学的探究心を有している人
- ・社会のニーズに柔軟に対応できる創造力と論理的思考力を有し、基礎薬学に軸足を置き、創薬研究や生命薬学研究に高い集中力で忍耐強く取り組む人

薬食生命科学専攻（博士後期課程）

「薬食融合」という共通認識を基に、薬学、栄養学、食品科学の知識を統合し、物質科学的及び生命科学的観点から薬食境界領域の薬食生命科学における先端的科学研究を通して、健康長寿社会への貢献を目指す次のような人を求めています。

- ・「健康寿命」を延ばすための「薬食生命科学」の学問領域に関心が高く、修得した教育研究の成果を、社会に還元することに意欲がある人
- ・「薬食生命科学」の専門分野の修得に必要な薬学、栄養学、食品科学、あるいは生命科学などの学問領域の基礎学力・研究の能力を備えている人
- ・国際社会から地域社会までの社会貢献を視野に入れたグローバルな思考ができる人

博士前期課程 薬科学専攻

履修案内

博士前期課程のカリキュラムは、必修科目である薬科学特論・講座特別演習・薬科学特別実験・薬科学特別演習、および選択科目である講座特論から構成されている。博士前期課程を修了するためには、計 **30 単位以上** を修得しなければならない。

1) 講座特論（必要単位数 8 単位以上）

選択科目である講座特論の内訳は以下のとおりである。

- ◇ 1 年次あるいは 2 年次に行われる以下の 21 科目より 8 科目（8 単位）の講座特論講義を修得しなければならない。

生化学特論	衛生分子毒性学特論	薬理学特論
医薬生命化学特論	薬品分析学特論	医薬品製造化学特論
生薬学特論	薬物動態学特論	創剤工学特論
分子病態学特論	生体情報薬理学特論	薬物治療学特論
創薬育薬基礎特論	創薬育薬応用特論	薬化学特論
薬品物理化学特論	医薬品創製化学特論	統合生理学特論
免疫微生物学特論	創薬探索学特論	

- ◇ 講座主任は、「系統的学習を課す」の趣旨で 1 年次 4 月に **3 科目を必修** として指定登録する。
- ◇（連携講義）指導教員が教育上の必要を認めた場合は、学府の定めるところにより、他専攻および他大学院の授業科目を履修できる。
- ◇ 8 単位を超えて単位を取得した場合、すべて修得単位として認定される。

2) 薬科学特論（必要単位数 4 単位）

特論の内訳は以下のとおりである。

- ◇ 1～2 年次を通じ、月例セミナーあるいは大学院特別講義に少なくとも 20 回出席することにより、4 単位が与えられる。
- ◇ 出席の認定は、所定のセミナーあるいは講義毎にセミナー聴講カード（セミナーカード）の提出及び出席表への署名で行う。セミナーカードは各自が保管し、所定の時期（2 年次 2 月）に学生室に提出すること。

3) 講座特別演習 (必要単位数 6 単位)

講座特別演習の内訳は以下のとおりである。

- (1) 1年次に開催された所属講座・研究室セミナーへの参加 (2 単位)
- (2) 2年次に開催された所属講座・研究室セミナーへの参加 (2 単位)
- (3) 学府が指定する学内研究発表会への参加 (1 単位)
- (4) 論文発表 (受理証明も含む) (1 単位)
- (5) 学会等での発表 (1 単位)
- (6) 学会等への参加とレポート提出 (1 単位)

◇以上の(1)、(2)、(3)に加え、(4)、(5)、(6)のうちのいずれかにより 6 単位を取得すること。

◇講座特別演習の単位認定は 6 単位を超えることはない。

4) 薬科学特別実験 (必要単位数 10 単位)

所属講座・研究室における実験・研究により 10 単位が与えられる。

5) 薬科学特別演習 (必要単位数 2 単位)

修士論文の作成、審査員との討論、論文の口述発表と質疑応答により 2 単位が与えられる。

◇単位の認定は、口述発表後の拡大合同専攻会議の合否判定に則り講座主任が行う。

単位認定について

単位認定の時期と認定者は以下のとおりである。

	時期	認定者
講座特論	各学期終了時	特論担当教員
薬科学特論	2 年次 2 月	研究院長 (学府長)
講座特別演習	2 年次 2 月	講座主任
薬科学特別実験	2 年次 2 月	講座主任
薬科学特別演習	2 年次 2 月	講座主任 (拡大合同専攻会議の合否判定に則り講座主任が行う。)

最終的な博士前期課程修了判定は、拡大合同専攻会議が上記の単位認定結果をもとに行う。

博士前期課程 薬科学専攻

修了必要単位数： 必修 22 単位、選択 8 単位、合計 30 単位（自由選択は含めない）

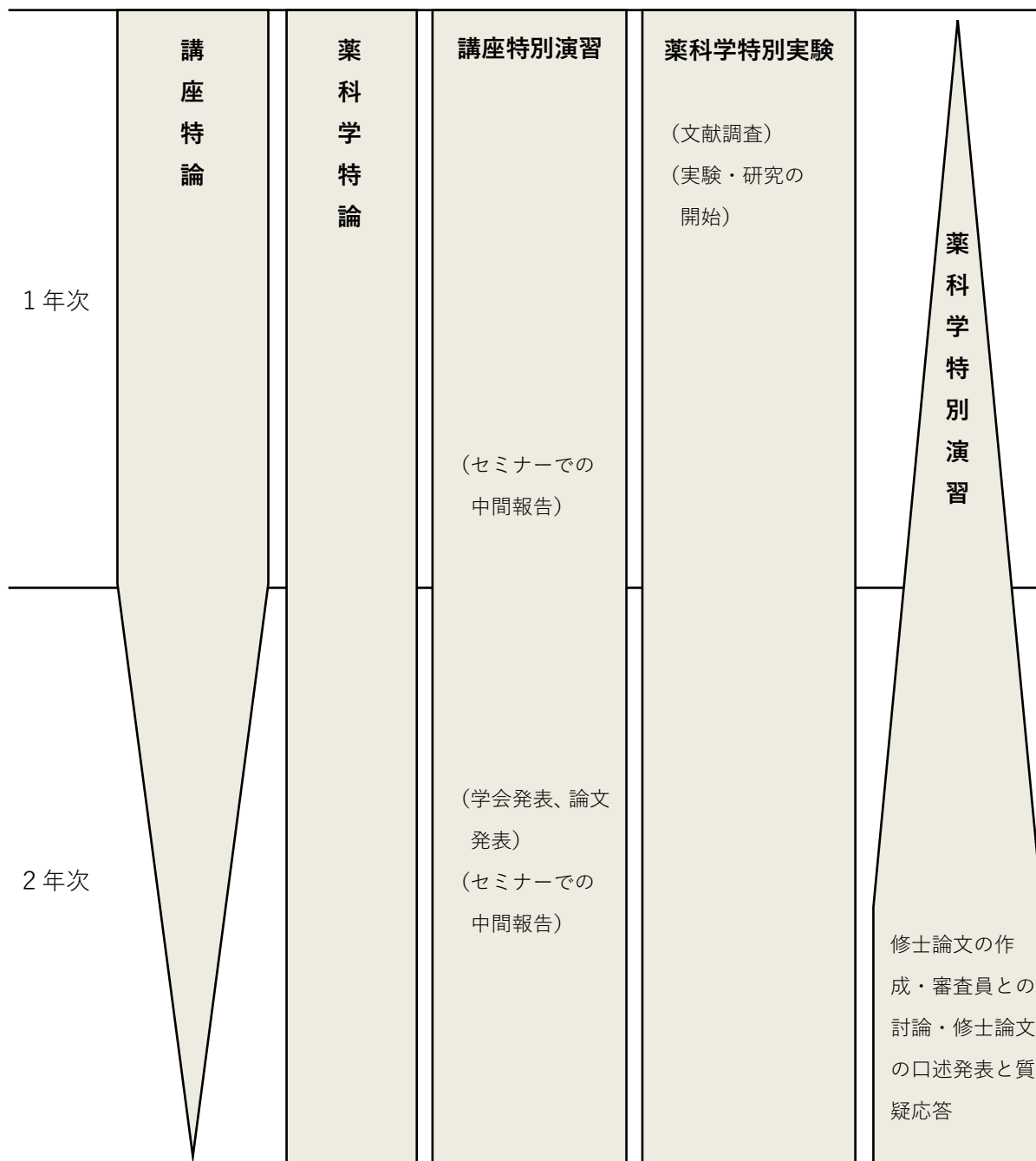
科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由選択	講義	演習	実習
必修科目	薬科学特論	1～2 通	4			○		
	講座特別演習	1～2 通	6				○	
	薬科学特別実験	1～2 通	10					○
	薬科学特別演習	1～2 通	2				○	
選択科目	生化学特論	1・2 前		1		○		
	衛生分子毒性学特論	1・2 前		1		○		
	薬理学特論	1・2 前		1		○		
	医薬生命化学特論	1・2 前		1		○		
	薬品分析学特論	1・2 前		1		○		
	医薬品製造化学特論	1・2 前		1		○		
	生薬学特論	1・2 前		1		○		
	薬物動態学特論	1・2 前		1		○		
	創剤工学特論	1・2 前		1		○		
	分子病態学特論	1・2 前		1		○		
	生体情報薬理学特論	1・2 前		1		○		
	薬物治療学特論	1・2 前		1		○		
	創薬育薬基礎特論	1・2 前		1		○		
	創薬育薬応用特論	1・2 前		1		○		
	薬化学特論	1・2 後		1		○		
	薬品物理化学特論	1・2 前		1		○		
	医薬品創製化学特論	1・2 前		1		○		
	統合生理学特論	1・2 前		1		○		
免疫微生物学特論	1・2 前		1		○			
創薬探索学特論	1・2 前		1		○			
自由選択科目	フロンティア科学特論Ⅰ	1～2 通			1	○		
	フロンティア科学特論Ⅱ	1～2 通			1	○		

(続き)

◇指導教員が必要と認め、かつ受講者数が上限に達していない場合、以下に示す博士後期課程の授業科目を受講できる。ただし、認定された単位は修了必要単位数（30単位）に含めない。なお、これらのシラバスは博士課程・博士後期課程のページを参照のこと。

- ・ 科学英語: オーラル・コミュニケーション
- ・ 科学英語: インディペンデント・リスニング
- ・ 科学英語: アカデミック・プレゼンテーション
- ・ 科学英語: アカデミック・ライティング
- ・ 科学英語: スモールグループディスカッション
- ・ 科学英語: 科学論文エディティング
- ・ 科学英語海外研修プログラム
- ・ 健康長寿科学特論
- ・ 薬剤学特論
- ・ 食品科学特論Ⅱ
- ・ 栄養科学特論Ⅱ

履修ロードマップ



(注) () 内の内容・時期は、所属講座の方針や研究の進捗状況による。

静岡県立大学大学院薬学研究院

薬科学特論（特別講義・月例セミナー等）セミナー聴講カード

学籍番号		氏名		所属講座	
担当講座	日時	出席印	担当講座	日時	出席印
生化学					
衛生分子毒性学					
薬理学					
医薬生命化学					
生体機能分子分析学					
医薬品製造化学					
生薬学					
薬剤学					
創剤工学					
分子病態学					
生体情報薬理学					
臨床薬剤学					
臨床薬効解析学					
実践薬学					
薬化学					
生命物理化学					
医薬品創製化学					
統合生理学					
免疫微生物学					
創薬探索センター					
薬学研究院					

薬食生命科学総合学府 博士前期課程 薬科学専攻

2026（令和8）年度 時間割表

曜		前期前半	前期後半	後期前半
月	1	薬品分析学特論	生化学特論	
	2	薬理学特論	薬物治療学特論	
火	1	薬物動態学特論	免疫微生物学特論	
	2	創薬探索学特論	統合生理学特論	
水	1	医薬品製造化学特論	医薬品創製化学特論	
	2	分子病態学特論	生体情報薬理学特論	
	ε		創薬育薬基礎特論 ／創薬育薬応用特論 §	
木	1	衛生分子毒性学特論	医薬生命化学特論	
	2	薬品物理化学特論	生薬学特論	
金	1			
	2	創薬工学特論		薬化学特論

※創薬育薬基礎特論： 6月初旬から7月下旬 19:00-20:30 詳細な講義日程は別途掲示

§創薬育薬応用特論： 集中講義 8月下旬 詳細な講義日程は別途掲示

※時間割は変更になる場合があります。

修士論文 作成・提出要領

提出物（１）～（４）を各提出期限までに指定された方法により提出すること。

（１）要旨集用要旨：A 4 用紙 1 枚

（２）審査用論文

査読を受ける論文で、フラットファイルで綴じたもの。

以下のものを合わせて提出すること。

- ・論文審査申請書（所定の様式に従う） 1 部
- ・審査用論文 審査員人数分

（３）図書館開架用最終論文 1 部

査読を受け、修正した最終論文(圧縮・両面印刷)。

（４）図書館開架用最終論文の目次原稿（Excelファイル）

(1) 修士論文要旨集用要旨の作成要領 A4判1枚

様式等

1. 原則として日本語とする。
2. A4版用紙に、縦置き（印刷の向き）横書きとする。
3. ワードプロセッサ等を用いて、白紙に印字する。
4. 日本語の印字は、**11ポイントの活字(MS明朝)**を用いる。
5. 1頁に**40字×38行**（行間隔 固定18pt)以内。（厳守）
6. 上余白 23mm、下余白 30mm 左余白25mm 右余白25mm。（厳守）
7. 英語の印字は、ダブルスペースとし、1頁に約70字×30行とする。
8. **上5行に Title(論文名、所属、氏名－英文名も付記)を太字**で記載。
9. 最終行にキーワード（4，5語句）を記載。
10. 図表等を積極的に使用して、簡潔にわかりやすい記述につとめる。
11. 挿入する化学構造式および図中の説明文も適度な大きさの活字を用いること。
12. 図表、化学構造式を入れる場合、40字×38行(行間隔 固定18pt)のスペース内に挿入すること。40字×38行にプラスして図表、化学構造式を入れることは避ける。
13. 所属研究室名の表記は、「**〇〇学講座**」とする(創薬探索センターは除く)。
※〇〇教室、〇〇分野は不備とする。
14. その他の様式は、原則として日本薬学会投稿規定に準拠するものとする。

例

ProSH3 のcytohesin 阻害による肝臓のインスリン抵抗性の惹起
Inhibition of cytohesins by ProSH3 leads to hepatic insulin resistance

（論文名は英文も含めて3行以内、中央揃え）

（4行目） **薬品微生物生化学講座 静岡 太郎 (Shizuoka,Taro)**

（5行目 空白） **（所属、氏名は右詰めで）**

（6行目より要旨本文）

.....

（最終行） キーワード：cytohesin、インスリン抵抗性、・・・

(2) 審査用論文の作成要領

① 論文審査申請書

Web掲示「学位論文審査申請書」をダウンロードして使用すること。

② 審査用論文

論文は製本しないで（簡易製本もしないで）、2穴ファイルに綴じ込むこと。

様式等

1. 原則として日本語とする。
2. A4版用紙に、縦置き（印刷の向き）横書きとする。
3. ワードプロセッサ等を用いて、白紙に印字する。
4. 日本語の印字は、原則として11ポイントの活字(MS明朝)を用いる。
5. 1頁に約40字×約38行（行間隔 固定18 pt）。
6. 上余白23 mm、下余白30 mm、左余白25 mm、右余白25 mm(厳守)。
7. 英語の印字は、ダブルスペースとし、1頁に約70字×30行とする。
8. 挿入する化学構造式や図においても、適度な大きさの活字を用いること。
9. その他の様式は、原則として日本薬学会投稿規定に準拠するものとする。
10. 表紙および内表紙のレイアウトは、次ページ以降の例を参照すること。
11. 背表紙に論文名、講座名、氏名を記入すること。

例：表紙のレイアウト（※枠は不要です）

静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府

修士論文

ProSH3 の cytohesin 阻害による肝臓の

インスリン抵抗性の惹起

Inhibition of cytohesins by ProSH3 leads

to hepatic insulin resistance

薬化学講座

静岡太郎

(SHIZUOKA Taro)

例：内表紙のレイアウト（※枠は不要です）

ProSH3 の cytohesin 阻害による肝臓の

インスリン抵抗性の惹起

Inhibition of cytohesins by ProSH3 leads

to hepatic insulin resistance

本論文は静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府

修士論文である。

2028年3月

(March, 2028)

(3) 図書館開架用最終論文

製本し図書館に保管する修士論文の印刷体を下記の要領で作成し、講座・研究室ごとに提出すること。

図書館開架用最終論文の体裁：

1. A4版用紙に縦置き（印刷の向き）横書きとし、両面印刷（左右のとじしろはない）。
2. 2穴の穴は空けないでクリップで留める。
3. 本文は圧縮を心がけること。日本語の印字は、原則として10ポイントとする。図、表も適度に小さく（captionは本文と同じ大きさ）して、本文の適所に挿入する。
4. 1頁に約40字×約38行（行間隔 固定18 pt）。
5. 上余白23 mm、下余白30 mm、左余白25 mm、右余白25 mm(厳守)。
6. 外表紙は不要。
7. 内表紙の日付は 2028 年3 月 (March, 2028) (次頁参照)。
8. 目次（および略語表）にはページ番号は不要で、内表紙の裏面印刷も可。
9. 本文の開始は、右開きページとする。
10. 本文には下部の中央にページ番号をつける。論文の序からページ番号を開始し、1、2、3 と通し番号（10ポイント）でつける。
11. 右開きページが奇数、左開き(裏面側) ページは偶数となる。
12. カラー印刷も可。
13. その他の様式は、原則として日本薬学会投稿規定に準拠する。

(4) 図書館開架用最終論文の目次原稿

製本し図書館に保管する修士論文の目次原稿を下記の要領で作成し、講座・研究

室ごとに**大学院図書館情報委員へメールにて**提出すること

図書館開架用最終論文の目次原稿の体裁：

- ・ 下記の表を講座（分野）ごとに Excel で作成する。
- ・ 日本語の印字は、原則として 10 ポイント、MS 明朝とする。

所属講座	学籍番号 氏 名	論文題目
薬化学	26261xx 静岡 太郎	ProSH3 の cytohesin 阻害による肝臓の インスリン抵抗性の惹起

例：内表紙のレイアウト（図書館開架用）（※枠は不要です）

ProSH3 の cytohesin 阻害による肝臓の

インスリン抵抗性の惹起

Inhibition of cytohesins by ProSH3 leads

to hepatic insulin resistance

本論文は静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府

修士論文である。

2028年3月

(March, 2028)

博士・博士後期課程

薬学専攻

薬科学専攻

薬食生命科学専攻

履修案内 博士課程 薬学専攻

科目区分	授業科目	単位数		
		講義	演習	実験・実習
必修科目	先端医療薬学特論	2		
	薬学セミナー	4		
	医療薬学演習		6	
	医療薬学特別実験			12
	医療薬学特別演習		4	
選択科目	糖鎖生化学特論	1		
	薬物代謝・毒性学特論	1		
	分子薬理学特論	1		
	薬物送達学特論	1		
	病態分子分析学特論	1		
	先端合成化学特論	1		
	生薬漢方薬学特論	1		
	薬物動態学特論Ⅱ	1		
	薬物放出制御学特論	1		
	薬物治療学応用特論	1		
	創薬育薬総合特論	1		
	創薬育薬実践特論	1		
	医薬品化学特論	1		
	構造生命科学特論	1		
	有機合成化学特論	1		
	統合生理学特論Ⅱ	1		
	免疫微生物学特論Ⅱ	1		
	創薬探索学特論Ⅱ	1		
自由選択科目	健康長寿科学特論	1		
	食品科学特論Ⅱ	2		
	栄養科学特論Ⅱ	2		
	科学英語:オーラル・コミュニケーション		1	
	科学英語:インディペンデント・リスニング		1	
	科学英語:アカデミック・プレゼンテーション		1	
	科学英語:アカデミック・ライティング		1	
	科学英語:スモールグループディスカッション		1	
	科学英語:科学論文エディティング		1	
	科学英語海外研修プログラム		2	
	フロンティア科学特論Ⅰ		1	
	フロンティア科学特論Ⅱ		1	
	ジョブ型研究インターンシップ			2
修了必要 単位数	必修科目 28 単位 選択科目 2 単位 (自由選択科目は含めない) 合計 30 単位			

なお、未記載の講義概要については担当教員に確認のこと

修了要件

本課程を修了するためには、以下にあげた計30単位以上を修得しなければならない

1) 先端医療薬学特論 (2単位)

医療薬学分野における最新の知見とその基礎となる考え方、実験手技について講義する先端医療薬学特論(15回講義)の履修により2単位が与えられる

2) 基礎薬学特論 (2単位)

以下の18科目より2科目を履修することにより2単位が与えられる
糖鎖生化学特論、薬物代謝・毒性学特論、分子薬理学特論、薬物送達学特論、
病態分子分析学特論、先端合成化学特論、生薬漢方薬学特論、薬物動態学特論Ⅱ、
薬物放出制御学特論、薬物治療学応用特論、創薬育薬総合特論、創薬育薬実践特論、
医薬品化学特論、構造生命科学特論、有機合成化学特論、統合生理学特論Ⅱ、
免疫微生物学特論Ⅱ、創薬探索学特論Ⅱ

3) 薬学セミナー (4単位)

1～4年次を通して月例セミナー、大学院特別講義、その他研究科委員会の認めたセミナーや講演会などに少なくとも20回出席する。出席の認定は、所定のセミナーあるいは講義ごとに出席カードの提出および出席表への署名で行う。出席カードは各自が保管し、所定の時期に学生室に提出すること

4) 医療薬学演習 (6単位)

以下の(1)～(2)により6単位が与えられる

(1) 1～4年次に開催される所属講座・研究室セミナーへの参加と発表(4単位)

(2) 学会発表(演者)(1回につき1単位)(2単位)

5) 医療薬学特別実験 (12単位)

所属講座・研究室において実験・研究により12単位が与えられる

6) 医療薬学特別演習 (4単位)

学術論文及び博士論文の作成指導

博士後期課程 薬科学専攻

科目 区分	授業科目	単位数		
		講義	演習	実験 実習
必修 科目	先端薬科学特別実験 先端薬科学特別演習		3	6
自由 選択 科目	健康長寿科学特論 食品科学特論Ⅱ 栄養科学特論Ⅱ 科学英語：オーラル・コミュニケーション 科学英語：インディペンデント・リスニング 科学英語：アカデミック・プレゼンテーション 科学英語：アカデミック・ライティング 科学英語：スモールグループディスカッション 科学英語：科学論文エディティング 科学英語海外研修プログラム ジョブ型研究インターンシップ	1 2 2	1 1 1 1 1 1 2	2
修了必要 単位数	必修科目 9 単位			

先端薬科学特別実験（6 単位）

所属講座・研究室において実験・研究により 6 単位が与えられる

先端薬科学特別演習（3 単位）

学術論文及び博士論文の作成指導

博士後期課程 薬食生命科学専攻

科目 区分	授業科目	単位数		
		講義	演習	実験 実習
必修 科目	薬食生命科学特別実験 薬食生命科学特別演習 健康長寿科学特論	1	3	6
選択 科目	薬剤学特論 食品科学特論Ⅱ 栄養科学特論Ⅱ 高齢者疾患予防学演習 薬食機能開発演習 臨床栄養薬物学演習 ジョブ型研究インターンシップ	2 2 2	2 2 2	2
自由 選択 科目	科学英語：オーラル・コミュニケーション 科学英語：インディペンデント・リスニング 科学英語：アカデミック・プレゼンテーション 科学英語：アカデミック・ライティング 科学英語：スモールグループディスカッション 科学英語：科学論文エディティング 科学英語海外研修プログラム		1 1 1 1 1 1 2	
修了必要 単位数	必修科目 10 単位、選択科目から 2 単位以上（自由選択科目は含めない）修得し、 12 単位以上修得すること。			

薬食生命科学特別実験（6 単位）

所属講座・研究室において実験・研究により 6 単位が与えられる

薬食生命科学特別演習（3 単位）

学術論文及び博士論文の作成指導

薬食生命科学総合学府 薬学専攻（博士課程）

薬科学専攻・薬食生命科学専攻（博士後期課程）

2026（令和8）年度 時間割表

曜		前期前半	前期後半	後期前半
月	1	病態分子分析学特論	糖鎖生化学特論	
	2	分子薬理学特論	薬物治療学応用特論	
火	1	薬剤学特論（尾上） 薬物動態学特論Ⅱ 食品科学特論	免疫微生物学特論Ⅱ 食品科学特論*☆	栄養科学特論*☆
	2	創薬探索学特論Ⅱ	統合生理学特論Ⅱ	
水	1	先端合成化学特論	有機合成化学特論	
	2	先端医療薬学特論（細岡）	先端医療薬学特論（黒川）	
	3		遺伝学特論Ⅱ*☆	
	※		創薬育薬総合特論*	
木	1	薬物代謝・毒性学特論	薬物送達学特論	
	2	構造生命科学特論	生薬漢方薬学特論	
金	1			
	2	薬剤学特論（近藤） 薬物放出制御学特論		医薬品化学特論

※創薬育薬総合特論：6月初旬から7月下旬 19:00-20:30 詳細な講義日程は別途掲示

※創薬育薬実践特論：集中講義 詳細な講義日程は別途掲示

※時間割は変更になる場合があります。

※薬科学専攻の授業科目（自由選択科目）は☆印のみ

※薬食生命科学専攻の授業科目（選択科目）は☆印および「薬剤学特論」のみ

博士論文 提出要領

提出物（１）～（７）を各提出期限までに指定された方法により提出すること。

- （１）論文要旨（2,000文字以内で表紙をつける）
- （２）履歴書（学歴・研究歴等を記載）※様式１・様式２
- （３）論文目録（主論文・副論文に分け、論文題目、掲載雑誌名、巻号、頁等を明記）
- （４）同意書（原本１部、コピー１部）
- （５）学位論文審査申請書 １部
- （６）学位論文（審査員人数分）
- （７）主論文の別刷（審査員人数分）

※別途、学生室教務担当より連絡します。

口述発表日 2週間前までに、下記書類を、学生室へ提出してください（郵送でも可）。

- ・ 同意書（原本） １部
- ・ 履歴書（様式１） １部
- ・ 履歴書（様式２） PDF（メール添付）
- ・ 論文要旨 PDF（メール添付）
- ・ 論文目録 PDF（メール添付）

口述発表日 1週間前までに

- ・ 学位論文審査申請書 １部
- ・ 学位論文（フラットファイルに綴じたもの） 審査員人数分
- ・ 主論文の別刷 審査員人数分
- ・ 同意書（コピー） １部

を学生室へ提出してください（郵送でも可）。

全学共同利用施設の案内

アイソトープセンターの利用について

1) 放射性同位元素取扱講習会について

放射性同位元素取扱を行う方は必ず講習会を受講して下さい。

- ・継続放射線取扱従事者：1 時間講習
RI 取扱い手続き、放射線障害防止法の法改正の要点、健康診断について等
- ・新規放射線取扱従事者：6 時間講習
 1. 放射線の人体に与える影響
 2. 放射性同位元素等の安全取扱 I
 3. 放射線障害防止法
 4. 静岡県立大学アイソトープセンター予防規程
 5. 放射性同位元素等の安全取扱 II
- ・注意事項：
 1. アイソトープセンター内のバイオハザード実験センター使用者は必ず受講すること。
 2. 継続放射線取扱従事者とは本学において6時間講習の経験を有するもの。新規放射線取扱従事者とは本学において6時間講習の経験を有しないもの（他施設での RI 従事経験者も含まれる）。

2) 放射線取扱従事者の健康診断について

1. 新規従事者は問診、皮膚、目、血液検査を含む健康診断を受けなければならない。
2. 継続従事者は年1回、問診、皮膚、目、血液検査を含む健康診断を受けなければならない。ただし過去1年間 RI を使用していない場合には問診のみを受け、問題がなければ問診のみでよい。
3. 継続従事者で健康診断を希望する場合には年1回または年2回、問診、皮膚、目、血液検査を含む健康診断を受けることができる。

3) 従事者の取り下げと再登録

1. 従事者を取り下げた場合には健康診断を必要としない。
2. 従事者を取り下げた場合で、一時的に RI センターへの入室の必要性が生じた場合には「一時立ち入り」で入室する。
3. 従事者経験者は、健康診断（本学の定期健康診断、年2回、または各自で行う）および簡易講習（1時間）を受けることにより従事者として再登録される。ただし4月に行われる講習を受けた年度にあっては簡易講習は免除される。
4. 従事者経験者は、従事者とならない場合にも、4月の継続者講習（1時間）を受けることができる。この場合、再登録の際の簡易講習は免除される。

4) 当面の使用者

1. 当面の使用者にはガラスバッジを用意し、「指紋」による入室登録を行う。
2. 当面使用予定のない従事者は、使用予定が生じた時点で、RI センターに申し出ることにより、ガラスバッジを用意し、「指紋登録」を行う（数日前には連絡のこと）。

静岡県立大学放射線取扱主任
静岡県立大学放射線安全委員長
静岡県立大学放射線運営委員長

動物実験センターの利用について

新規に利用する場合は、年度初めに開催される利用者講習会を必ず受講してください。現在、静岡県立大学動物実験センター利用者（以下「利用者」という）のうち、継続利用者には利用に関する講習会を行っていません。しかしながら最近、実験動物センターの使用法（土足厳禁、片づけ励行、持ち込み器具の扱い、卒業・修了生の動物の処分等）が乱れているのが現状です。このままですと毎年講習会を開く等の措置を講じる必要性すら考えられます。共同利用の施設であることを十分に理解し、お互いの研究・教育に支障のないように心がけることが重要です。教職員、大学院生、学部学生の利用者は、以下のことを厳守してください。

以下に、静岡県立大学動物実験センター利用細則の一部抜粋を載せます。

5. 入退室

- 1) 動物実験センターを利用する際は、所定の履物及び衣類を着用する。
- 2) 動物実験センターを利用する際は、動物実験センター入退室記録簿に必要事項を記入する。

11. 施設の清掃

薬物投与等の作業によって飼育室、前室等を汚した場合は、利用者が清掃し使用前の状態にする。

14. 実験室及び解剖室の利用

- 3) 利用者は実験室及び解剖室の使用後、清掃を行い、機器・実験具等も洗浄して所定の位置に整理整頓をし、現状に復してから退室する。
- 4) 利用者が実験・手術に際して利用者が持ち込んだ機器・実験用具は、原則として動物実験センター内には保管しない。

静岡県立大学動物実験センター管理規程

第8条 運営委員会は、利用者が前条に定める事項（具体的には上記の規定など）に著しく違反した場合には、動物実験センターの利用を禁止することができる。

なお、卒業・修了生の動物が使われぬまま飼育されていることがありますので、この点も十分留意してください。また、実験動物を無為に処分することを減ずるために、本年度より実験動物センターに伝言板を設置する予定です。不要の動物の種類、匹数、周齢、雌雄、連絡先を明記することにより、注射や解剖の練習等で使われる講座・研究室に引き継げるようにしたいと考えております。御協力をお願いします。

静岡県立大学動物実験センター運営委員会